

# 随伴の列と Set

alg-d

[http://alg-d.com/math/kan\\_extension/](http://alg-d.com/math/kan_extension/)

2020年2月27日

※ この PDF では局所小とは限らない圏を扱う。

**定理 1.**  $F: C \rightarrow D$  が関手で  $C$  が小圏,  $D$  が局所小圏のとき  $F^\dagger \dashv F^{-1} \dashv F^\ddagger: \widehat{C} \rightarrow \widehat{D}$  である.  $\square$

$0 \dashv ! \dashv 1: \mathbf{1} \rightarrow \mathbf{Set}$  だから  $0^{-1} \dashv !^{-1} \dashv 1^{-1}: \widehat{\mathbf{Set}} \rightarrow \widehat{\mathbf{1}} = \mathbf{Set}$  が成り立つ. 故に随伴の列  $0^\dagger \dashv 0^{-1} \dashv !^{-1} \dashv 1^{-1} \dashv 1^\ddagger: \mathbf{Set} \rightarrow \widehat{\mathbf{Set}}$  を得る.

**命題 2.** 小圏  $C$  の米田埋込を  $y: C \rightarrow \widehat{C}$ ,  $\widehat{C}$  の米田埋込を  $z: \widehat{C} \rightarrow \widehat{\widehat{C}}$  とする. このとき  $y^\ddagger \cong z$  である.

**証明.**  $y^{-1} \dashv y^\ddagger: \widehat{C} \rightarrow \widehat{C}$  だから,  $F := y^{-1} \circ z$  とすれば  $y^\ddagger \cong F^\dagger z$  である (普遍随伴).

$P \in \widehat{C}$  に対して  $F(P) = y^{-1}(z(P)) = z(P) \circ y = \text{Hom}_{\widehat{C}}(y(-), P) \cong P$  だから  $F \cong \text{id}$  である. 故に  $F^\dagger z(P) \cong \text{Hom}_{\widehat{C}}(F-, P) \cong \text{Hom}_{\widehat{C}}(\text{id}_{\widehat{C}}(-), P) \cong z(P)$  だから  $F^\dagger z \cong z$  である. よって  $y^\ddagger \cong F^\dagger z \cong z$  が分かった.  $\square$

**系 3.** 圏  $\mathbf{Set}$  の米田埋込  $y: \mathbf{Set} \rightarrow \widehat{\mathbf{Set}}$  に対して, 随伴の列  $U \dashv V \dashv W \dashv X \dashv y$  が存在する.

証明. 圏  $\mathbf{0}$  の米田埋込を  $z: \mathbf{0} \rightarrow \widehat{\mathbf{0}} = \mathbf{1}$ , 圏  $\mathbf{1}$  の米田埋込を  $w: \mathbf{1} \rightarrow \widehat{\mathbf{1}} = \mathbf{Set}$  とする. 随伴  $z^{-1} \dashv z^\dagger: \mathbf{Set} = \widehat{\mathbf{1}} \rightarrow \widehat{\mathbf{0}} = \mathbf{1}$  が成り立つから, 命題 2 により  $z^{-1} \dashv w$  が分かる. ここで  $z^{-1} = !: \mathbf{Set} \rightarrow \mathbf{1}$  だから  $w \cong 1: \mathbf{1} \rightarrow \mathbf{Set}$  である. 故に  $1^\dagger \cong w^\dagger \cong y$  となり

$$0^\dagger \dashv 0^{-1} \dashv !^{-1} \dashv 1^{-1} \dashv 1^\dagger \cong y$$

が分かる. □

この系の性質は実は  $\mathbf{Set}$  の特徴付けを与える (系 7). 以下ではそれを説明する.

$C$  を局所小圏として, 米田埋込  $y: C \rightarrow \widehat{C}$  に対して随伴の列  $W \dashv X \dashv y$  が存在するとする.  $W \dashv X$  の unit を  $\eta$ ,  $X \dashv y$  の counit を  $\varepsilon$  とする.  $y$  が忠実充満だから  $W$  も忠実充満であり, よって  $\eta$  と  $\varepsilon$  は自然同型である. 今, 自然変換  $\sigma: W \Rightarrow y$  で

$$\begin{array}{ccc} \begin{array}{c} \begin{array}{ccc} C & & C \\ \eta \swarrow & & \nwarrow \varepsilon \\ \widehat{C} & & \widehat{C} \\ \sigma \swarrow & & \nwarrow y \\ C & & C \end{array} \\ \text{id}_C \quad \text{id}_C \end{array} & = & \begin{array}{c} \begin{array}{ccc} C & & C \\ \text{id} \swarrow & & \nwarrow \text{id} \\ C & & C \end{array} \\ \text{id}_C \quad \text{id}_C \end{array} \end{array}$$

を満たすものが一意に存在する. 充満部分圏  $A \subset C$  を  $\text{Ob}(A) := \{a \in C \mid \sigma_a \text{ が同型}\}$  により定義し,  $I: A \rightarrow C$  を包含関手とする. 定義より  $\sigma_I: WI \Rightarrow yI$  は自然同型である.

**定理 4.** 局所小圏  $C$  の米田埋込  $y: C \rightarrow \widehat{C}$  に対して小圏  $A$  が存在して  $C \cong \widehat{A}$  と書ける  $\iff$  随伴の列  $W \dashv X \dashv y$  が存在し, 上記のように  $I: A \rightarrow C$  を取ると  $I$  が稠密で  $I^{-1}$  が左随伴を持つ.

証明. ( $\implies$ ) 略

( $\impliedby$ )  $I^{-1}$  が左随伴を持つから左 Kan 拡張  $I^\dagger$  が存在し  $I^\dagger \dashv I^{-1}$  である.  $F := I^{-1} \circ y$  とすると  $I^\dagger \dashv I^{-1}$  かつ  $X \dashv y$  だから  $F$  は左随伴  $X \circ I^\dagger$  を持つ.

$$\widehat{A} \begin{array}{c} \xrightarrow{I^\dagger} \\ \xleftarrow{\perp} \\ \xleftarrow{I^{-1}} \end{array} \widehat{C} \begin{array}{c} \xrightarrow{X} \\ \xleftarrow{\perp} \\ \xleftarrow{y} \end{array} C$$

$I$  が忠実充満だから  $I^\dagger$  も忠実充満であり, よって  $I^{-1} \circ I^\dagger \cong \text{id}$  である. 今  $I$  が稠密だから  $F \cong \text{Hom}_A(I-, \square)$  は忠実充満である. 従って  $F$  が本質的全射であることを示せばよ

い. そのために任意の  $P \in \widehat{A}$  に対して  $c := X(I^\dagger P)$  とすると

$$\begin{aligned} F(c) &\cong \text{Hom}_C(I-, c) = \text{Hom}_C(I-, X(I^\dagger P)) \cong \text{Hom}_{\widehat{C}}(WI-, I^\dagger P) \\ &\cong \text{Hom}_{\widehat{C}}(yI-, I^\dagger P) \cong I^\dagger P(I-) = (I^{-1} \circ I^\dagger)(P) \\ &\cong P \end{aligned}$$

となるから  $F$  は本質的全射である.  $\square$

**定理 5.** 局所小圏  $C$  の米田埋込  $y: C \rightarrow \widehat{C}$  に対して

余完備順序集合  $A$  が存在して  $C \cong \widehat{A}$  と書ける  $\iff$  随伴の列  $V \dashv W \dashv X \dashv y$  が存在する.

**証明.** ( $\implies$ )  $A$  を余完備順序集合として  $z: A \rightarrow \widehat{A}$  を米田埋込とすると  $z$  は左随伴  $F$  を持つ. よって  $F^\dagger \dashv F^{-1} \dashv z^{-1} \dashv z^\dagger \cong y$  である.

( $\impliedby$ ) 上記のように  $I: A \rightarrow C$  と  $\sigma: W \Rightarrow y$  を取る.  $T := Vy: C \rightarrow C$  とすると  $\sigma_T$  は自然同型である. よって  $H: C \rightarrow A$  を  $Hc := Tc$  で定義できる. このとき  $H \dashv I$  である. 故に  $H^{-1} \dashv I^{-1}$  である. また  $I$  は稠密である. 故に定理 4 (の証明) により  $A$  は小圏で  $C \cong \widehat{A}$  が分かる. また  $A$  は余完備であることが分かる. 故に  $A$  は順序集合である.  $\square$

**定理 6.** 局所小圏  $C$  の米田埋込  $y: C \rightarrow \widehat{C}$  に対して

$C \cong \mathbf{Set} \iff$  随伴の列  $V \dashv W \dashv X \dashv y$  が存在し,  $V$  が pullback と交換する.

**証明.** ( $\implies$ ) 系 3 と右随伴が pullback と交換することから明らか.

( $\impliedby$ ) 定理 5 (の証明) により, 順序集合  $A$  を使って  $C \cong \widehat{A}$  と書けるが, このとき  $A$  が Grothendieck トポスであることが分かる. すると射  $1 \rightarrow \Omega$  が 1 つしか無いから  $\text{true} = \text{false}: 1 \rightarrow \Omega$  である. 故に  $A = \mathbf{1}$  であり  $C \cong \mathbf{Set}$  が分かる.  $\square$

**系 7.** 局所小圏  $C$  の米田埋込  $y: C \rightarrow \widehat{C}$  に対して

$C \cong \mathbf{Set} \iff$  随伴の列  $U \dashv V \dashv W \dashv X \dashv y$  が存在する.

**証明.** 右随伴  $V$  が pullback と交換するから明らか.  $\square$

## 参考文献

- [1] R. Rosebrugh and R. J. Wood, an Adjoint Characterization of the Category of Sets, Proceedings of the American Mathematical Society vol. 122 No. 2 (1994),

409–413